

# あ・そうかい通信

あ・そうかい 会報

第 14 号

2018 年 7 月 23 日

発行：あ・そうかい

編集：運営委員会

## 生きる

港川中学校 3 年 相良倫子

私は、生きています。

マントルの熱を伝える大地を  
踏みしめ、

心地よい湿気を孕（はら）ん

だ風を全身に受け、

草の匂いを鼻孔に感じ、

遠くから聞こえてくる潮騒に

耳を傾けて。

私は今、生きています。

私の生きるこの島は、

何と美しい島だろう。

青く輝く海、

岩に打ち寄せしぶきを上げて

光る波、

山羊の嘶（いなな）き

小川のせせらぎ、

畑に続く小道、

萌え出づる山の緑、

優しい三線（さんしん）の響

き、

照りつける太陽の光。

私はなんと美しい島に、

生まれ育ったのだらう。

ありったけの私の感覚器で、

感受性で、

島を感じる。心がじわりと熱

くなる。

私はこの瞬間を、生きています。

この瞬間のすばらしさが

この瞬間の愛（いと）おしき

が

今と言う安らぎとなり

私の中に広がりゆく。

たまらなく込み上げるこの気

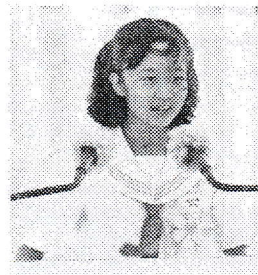
持ちを

どう表現しよう。

大切な今よ

かけがえのない今よ

私の生きる、この今よ



浦添市立港川中学校 3 年  
相良倫子さん

七十三年前、

私の愛する島が、死の島と化

したあの日。

小鳥のさえずりは、恐怖の悲

鳴と変わった。

優しく響く三線は、爆撃の轟

（とどろき）に消えた。

青く広がる大空は、鉄の雨に

見えなくなつた。

草の匂いは死臭で濁り、

光り輝いていた海の水面は、

戦艦で埋め尽くされた。

火炎放射器から吹き出す炎、

幼子の泣き声、

燃えつくされた民家、火薬の

匂い。

着弾に揺れる大地。血に染ま

った海。

魑魅魍魎（ちみもうりょう）

の如く、姿を変えた人々。

阿鼻叫喚（あびきょうかん）

の壮絶な戦の記憶。

みんな、生きていたのだ。

私と何も変わらない、

懸命に生きる命だったのだ。

彼らの人生を、それぞれの未

来を。

疑うことなく、思い描いてい

たんだ。

家族がいて、仲間がいて、恋

人がいた。

仕事があった。生きがいがあ

った。

日々の小さな幸せを喜んだ。

手を取り合って生きていた、

私と同じ、人間だった。

それなのに、

壊されて、奪われた。

生きた時代が違う。ただ、そ

れだけで。

無辜（むこ）の命を。あたり

前に生きていた、あの日々を。

摩文仁（まぶに）の丘。眼下

に広がる穏やかな海。

悲しくて、忘れることのでき

ない、この島の全て。

私は手を強く握り、誓う。

奪われた命に思いを馳せて、

心から、誓う。

私が生きています限り、

こんなにもたくさん命を犠

牲にした戦争を、絶対に許さ

ないことを。

もう二度と過去を未来にしな

いこと。

全ての人間が、国境を越え、

人種を超え、

宗教を越え、あらゆる利害を

越えて、平和である世界を目

指すこと。

生きる事、命を大切にできる

ことを、

誰からも侵されない世界を創

ること。

平和を創造する努力を、厭（い

と）わなないことを。

あなたも、感じるだらう。

この島の美しさを。  
 あなたも、知っているだろう。  
 この島の悲しみを。  
 そして、あなたも、  
 私と同じこの瞬間（とき）を  
 一緒に生きているのだ。  
 今と一緒に、生きているのだ。  
 だから、きっとわかるはずな  
 んだ。  
 戦争の無意味さを。本当の平  
 和を。  
 頭じゃなくて、その心で。  
 戦力という愚かな力を持つこ  
 とで、  
 得られる平和など、本当は無  
 いことを。  
 平和とは、あたり前に生きる  
 こと。  
 その命を精一杯輝かせて生き  
 ることだということ。  
 私は、今を生きている。  
 みんなと一緒に。  
 そして、これからも生きてい  
 く。  
 一日一日を大切に。  
 平和を想って。平和を祈って。  
 なぜなら、未来は、  
 この瞬間の延長線上にあるか  
 らだ。

つまり、未来は、今なんだ。  
 大好きな、私の島。  
 誇り高き、みんなの島。  
 そして、この島に生きる、す  
 べての命。  
 私と共に今を生きる、私の友。  
 私の家族。  
 これからも、共に生きてゆこ  
 う。  
 この青に囲まれた美しい故郷  
 から。  
 真の平和を発信しよう。  
 一人一人が立ち上がって、  
 みんなで未来を歩んでいこう。  
 摩文仁の丘の風に吹かれ、  
 私の命が鳴っている。  
 過去と現在、未来の共鳴。  
 鎮魂歌よ届け。悲しみの過去  
 に。  
 命よ響け。生きゆく未来に。  
 私は今を、生きていく。  
 .....  
 以上は「慰霊の日」の6月  
 23日、糸満市、平和祈念公  
 園で行われた沖縄全戦没者追  
 悼式で相良倫子さんが読み上  
 げた自作の「平和の詩」(題名..  
 生きる)の全文です。

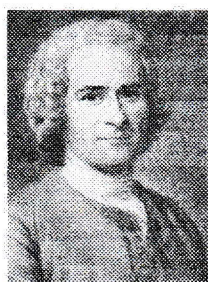
### 魚眼・複眼

我々の年代は、三島由紀夫が  
 割腹自殺をした衝撃的なニュ  
 ースを覚えていよう。そ  
 れは1970年の出来事。す  
 でに50年の時を過ぎようと  
 しているが、彼が死の直前に  
 残した言葉を紹介したい。  
 「私はこれからの日本に大し  
 て希望をつなぐことができな  
 い。このまま行ったら「日本」  
 はなくなってしまふのではな  
 いかという感を日ましに深く  
 する。日本はなくなって、そ  
 の代わりに、無機的な、から  
 つばな、ニュートラルな、中  
 間色の、裕福な、抜目がない、  
 或る経済的大国が極東の一角  
 に残るのであろう。それでも  
 いいと思っている人たちと、  
 私は口をきく気にもなれなく  
 なっているのである」  
 いま、唯一の被爆国である  
 日本が「核兵器禁止条約」を、  
 海に囲まれた日本が「海洋プ  
 ラスチック憲章」の批准を見  
 送ったなどの姿をみると、5  
 0年前の三島由紀夫の慧眼に  
 驚きを禁じ得ないのである。

### 飯塚敏洋の読書のススメ

岩波文庫が昨年創刊90  
 年を迎え、その間によく売れ  
 た文庫本の第一位はプラトン  
 の「ソクラテスの弁明・クリ  
 トン」、第二位は夏目漱石の  
 「坊ちゃん」、第三位はルソー  
 の「エミール(上)」であるこ  
 とを新聞で知りました。  
 累計約六千点にも及ぶ文庫  
 本の中で、「エミール(上)」  
 が「坊ちゃん」に次いで売れ  
 ているとは正直驚きです。  
 ルソー(1712〜78)  
 はフランス革命に多大な影響  
 を与えた思想家であり、ドイ  
 ツの哲学者で知られるカント  
 やヘーゲルにも影響を与えた  
 とされています。「エミール」  
 は、ルソー自身である語り手  
 が家庭教師となつて、エミ  
 ールという架空の男の子を乳幼  
 児期から大人になり、結婚す  
 るまで、どのような教育を施  
 していけばよいかを具体的な  
 実例を挙げながら小説のよう  
 な形式で語った作品です。  
 書き出しの「万物をつくる  
 者の手をはなれるときすべて

はよいものであるが、人間の  
 手にうつるとすべてが悪くな  
 る」は特に有名です。一般読  
 者向けに平易な文章で書かれ  
 ています。教育内容は多岐  
 に亘りどれも奥が深く全三巻  
 (上・中・下)を読み通すの  
 は容易ではありません。この  
 作品は「近代教育学の古典」  
 と言われていますが、ルソー  
 の批判精神に溢れた思想の全  
 てが注ぎ込まれているため、  
 フランス革命の理念である  
 「自由・平等・博愛」精神を  
 獲得するに至った背景を知る  
 うえでもお薦めの一冊です。



ジャン・ジャック・ルソー

### 編集後記

今回も変則編集になりました。  
 た。ぜひ「生きる」の全文を  
 読んでいただきたいから  
 です。相良さんの朗読シー  
 ンはネットで動画を見ることが  
 できます。感動します！ぜひ  
 見ていただきたいと思ひます。